



たてやま

おのがんまつち

南総祭礼研究会

2016.3 No.30



布良地区 布良崎神社



青木繁が描いた「海の幸」



小谷家



阿由戸浜と青木繁記念碑

「大島」その間に、空が朱く染まる夕陽がしずむ頃、正に絶景が見られます。

「富士山」が、左手に

「阿由戸浜」からは、右手に伊豆半島越に

「富士山」が、左手に

「阿由戸浜」からは、右手に伊豆半島越に

「富士山」が、左手に

「阿由戸浜」からは、右手に伊豆半島越に

「富士山」が、左手に

「阿由戸浜」からは、右手に伊豆半島越に

「富士山」が、左手に

「阿由戸浜」からは、右手に伊豆半島越に

「富士山」が、左手に

「阿由戸浜」からは、右手に伊豆半島越に

「富士山」が、左手に

「阿由戸浜」からは、右手に伊豆半島越に

「富士山」が、左手に

明治の頃には、今の天皇よりさらに二回り大きな神輿があったそうです。

現在の担ぎ棒は、三芳の山に入り檜を数十本目当てをし、水気の少ない時期に切り出してきて、3年ほど寝かせた物を使っています。

り、かなりきつかったと長老達は語ります。

り、かなりきつかったと長老達は語ります。

り、かなりきつかったと長老達は語ります。

り、かなりきつかったと長老達は語ります。

り、かなりきつかったと長老達は語ります。

り、かなりきつかったと長老達は語ります。

り、かなりきつかったと長老達は語ります。

り、かなりきつかったと長老達は語ります。

- 屋根: 延屋根一直線型
- 葺手: 普及型
- 造: 塗神輿
- 露盤: 樹型
- 舁組: 五行三つ手
- 扉: 四方扉
- 鳥居: 明神鳥居
- 台輪: 普及型
- 台輪寸法: 4尺
- 彫刻師: 後藤喜三郎橘義信
- 制作年: 不明
- 他: 昭和57年、平成21年に修復



檜の丸太で組んだ担ぎ棒



房総一の重量と言われる大天皇



後藤喜三郎橘義信による彫刻

地域の紹介

房総半島の最南端、平砂浦の端に位置し、古の昔、阿波忌部族の上陸地とされる「駒ヶ崎」、その東方には「祖神天太玉命」を祀る男神山、「后神天比理刀咩命」を祀る女神山が聳えます。男神山には平成二十年まで布良鼻灯台が有り、航海安全を守ってきました。

江戸時代には「押送船」で鮮魚を江戸に送るルートが確立され、江戸との交流が盛んに行われ、布良崎神社境内には日本橋蔵屋敷より石灯籠が奉納されています。明治の頃には鮪延縄漁が隆盛を極め、銀行や遊戯場、湯屋などが並び、二家に軒は店だったと言

われるほど、日本一人口密度が高い地区でした。

港の沖合は漁種の豊富な布良瀬「鬼瀬」と呼ばれます。海で亡くなった亡霊が赤い光になって輝いていると伝承されるカノープス「布良星」も有名です。また、水産改革の実践や「内村鑑三」にも影響を与えた「富崎村長神田吉右衛門」、神社や漁港再建に尽力した「富崎村長満井武平」などを輩出しました。また、明治期の画壇に大きな影響を与えた青木繁がこの地に滞在して描いた「海の幸」は、国指定重

要文化財に指定され、滞在先の「小谷家」は館山市指定文化財として、この度、ノーベル賞を受賞された大村智氏らのご尽力により保存、公開されます。ドラマ「ビーチボーイズ」のロケ地になった「阿由戸浜」からは、右手に伊豆半島越に「富士山」が、左手に「大島」その間に、空が朱く染まる夕陽がしずむ頃、正に絶景が見られます。

自慢の神輿

大天皇と呼ばれる大神輿の制作年代は不明ですが、彫刻は国分の彫工・後藤喜三郎橘義信の作です。房総一の重量と言われる台輪4尺の大天皇と呼ばれる神輿、「歯を食いしはる」ほどの気合を入れて、力自慢達が担ぎ出します。

十五年位前までは、担ぎ棒は今より左右4尺短く、一人の肩に重さがずつしりと掛か

近後画

